新社長からのメッセージ

この6月の株主総会で西芝電機株式会社の取締役社長を拝命しました。個人としては日本機械学会に学生時代（今から35年前）に入会して以来、学会誌は毎号欠かさず購読させてもらっています。

弊社は、1950年に兵庫県姫路市にある東芝網干工場を継承し創業して以来54年にわたり、東芝グループの一員として、発電システム、船舶用電機システム、制御システムおよび産業機器（コンプレッサなど）など、システムおよび機器の提供を通じて、エネルギーの効率的利用と制御の高度化を追求することによって幅広く社会に貢献している会社です。特に、ガスおよびディーゼルエンジン用発電機やコージェネレーション用発電機、船舶用電機システムの分野では国内トップシェアを確保しています。中でもコージェネレーションシステムの分野では、高効率エンジンおよび高効率発電機を採用したパッケージ発電システム「NDPシリーズ」を市場投入し、好評を得ています。また、発電システムの製造・販売のみならず、システムコンサ

得意技術＋周辺および横断新技術の採用でさらなる飛躍を！

西芝電機株式会社

代表取締役社長 **石井 明**

Akira ISHII

図1 パッケージ発電システム

ルタントから保守サービスに到るまでトータルでのソリューションを提供すべく「トータルコーディネート事業」を展開しています。その一環として、ユーザに設置された発電装置を24時間体制で遠隔監視し、予防保全や異常時に素早く対応できる体制を敷いております。さらに、船舶用電機システム分野では、船舶の推進プロペラを電動機で駆動する電気推進システムを開発・実用化し、船の排ガスにおける窒素酸化物の低減など低公害化に貢献しています。新しい技術では、東海大学、株式会社テクノバ、株式会社商船三井と共同で、「直線翼垂直軸形風車」を採用した船用風力発電装置を開発し、世界初の船上実験を実施しました。今後とも発電技術／ドライブ技術をコアコンピタンスとして、エネルギーソリューションの提供で地球環境に貢献する企業を目指していきます。

私自身は、東芝へ入社後、火力発電や原子力発電、上下水道、鉄鋼、石油化学、食品などのプラント計装に使用するセンサの開発に携わりました。センサは、検出すべき物理量をできる限り正確にアウトプットすることが使命であることから、種々の外乱による影響をいかに少なく押さえ込むかが最大の課題で、この解決に向けて、構造設計のみならず材料の選定から接合、電子回路、通信技術、半導体の物性に到るまで関係のありそうな文献・書物・専門家訪問などによる調査・実験・試作を繰り返すことに日夜没頭していました。おかげで、事業や商品に必要な技術以外に、製造業として横断的な技術分野についても一通り勉強させてもらいました。この経験によって、多少技術分野が異なってもある程度内容が理解できるようになったことが、その後、技術主体の企業の経営に携わるようになって貴重な財産だと感じています。

昨今の企業の技術者は、業務の効率化と管理の高度化によって、各個人のスキルを重視した分業体制のもとで、ともするとその事業に最小限必要な技術領域での活躍のみに埋没しているように思えます。しかしながら、中国を初めとするアジア諸国の台頭によって、弊社のみならず日本の製造業全体が先手先手で新技術や新製品を生み出していかなくては存続発展できない時代が到来しています。そのためには、自身が得意とする事業や製品に必要な技術のみならず、それらの周辺技術およびそれらを横断する新技術も積極的に採り入れ、かつうまく組み合わせることで、新しい商品の創造や現商品のブラッシュアップを図る努力をすることがますます必要になって来ると思います。

エネルギー、環境、ナノテクノロジー、バイオエンジニアリングなど日本の製造業にとって必須の横断的基幹技術の発展に向けて、本学会が今後とも主導的役割を果たしていただくことを期待するとともに、若い会員諸氏の熱意と創造力で、日本の製造業がさらなる飛躍を遂げることを熱望する次第です。

Profile

■石井 明（いしい あきら） ■1948年4月生まれ
■略歴／1970年東京大学工学部船舶機械工学科卒業、同年東京芝浦電気株式会社（現株式会社東芝）入社、1990年同社府中工場マイクロエレクトロニクス機器部長、1996年同社電機事業本部電機企画室長、1998年同社電機事業本部電機システム事業部長、1999年同社情報・社会システム産業・電機・計装システム事業部長、2000年東芝ITコントロールシステム株式会社代表取締役社長、2004年西芝電機株式会社代表取締役社長（現任）
■日本機械学会 正員

■西芝電機株式会社
■〒671-1280 姫路市網干区浜田1000番地／
<http://www.nishishiba.co.jp>
■日本機械学会 特別員